

及び衛生管理者の各自によるパトロール。

・防火パトロール

防火管理者等による防火管理者パトロール、幹部及び防火管理者等による火災予防パトロール。

- (3) 各職場での作業及び行動の中に潜む危険要因を各職場で話し合い、行動する前に解決することを習慣づけるための訓練として、各職場で作成したワンポイントレッスンシートを使用しての、KYT(危険予知訓練)活動に取り組んでいます。このシートは、水平展開を図るべく他職場でも閲覧可能となっています。
- (4) 防火に関しては火災を起こさない仕組みとして、作業計画、作業員の事前の資格、養生の第三者チェック、火気監視人等、各種事項を行うこととしています。
- (5) 全社員、当社の構内で働く者に、毎年保安教育を実施し、コンプライアンス等の教育を含め安全関係全般の教育を実施しています。
- (6) 社長のもと各種マネジメントシステムを動かして、全社で安全の確保、品質維持向上に努めています。マネジメントシステムには、次のようなものがあり、当社内では特に防火にも積極的に取り組んでいます。
- ① 当社加工施設の安全の達成・維持・向上を目的とした、保安品質マネジメントシステムを構築して、各部門において保安品質目標を設定して活動を行っています。
 - ② 2009年7月より、防火マネジメントシステムを構築して防火管理に取り組んでおり、座学による内外の火災事例教育、初期消火活動の実務訓練及び火気設備の定期点検等を行っています。更に、社外の防火に関する専門家によって構成される「外部専門委員会」を設置し、半年に1回の定例委員会を開催(令和元年度は新規制対応工事があるため4ヶ月に1回)して指導を受け、社員の防火意識の高揚を図り、火災発生の防止及び万一の火災発生時の適切な対応等の推進を行っています。
 - ③ 労働安全衛生マネジメントシステムを構築して、自主的な安全衛生活動の推進と労働災害等の防止に努めています。
 - ④ 環境マネジメントシステムを構築して、自主的な環境管理活動を推進し、環境負荷の低減等の目標を設定して活動を行っています。
 - ⑤ ISO 9001の要求事項に基づく製品品質マネジメントシステムを構築して、お客様と社会のニーズと期待にこたえる安全・安心な製品の供給に向けた目標を設定して活動を行っています。
 - ⑥ 上記①～⑤の5つのマネジメントシステムに関しては、PDCA(Plan Do Check Action=計画・実施・評価・改善)サイクルを廻すことにより、より信頼性・有効性の高い活動を目指しています。

3. 最近の主な活動について

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災以降、防災体制を強化した防災組織による防災総合訓練等を実施しておりますが、近年は再転換加工工程を有する観点でのフッ化水素ばく露を想定した応急処置訓練や、被ばく事故事例を踏まえた管理手順を導入した訓練により、更に防災機能の向上を図っています。
- (2) 今年度は、新規制基準に適合させたより安全な工場とすべく、設計工事認可を反映し、安全を確保した上で工事を進めているところです。
- (3) ヒヤリハット等、現場の声を収集して予防措置につなげる仕組みについては、既に保安品質マネジメントシステムに取り入れていますが、今後、新規制基準の中で活動を行うこととしました。

これらの活動を通じ安全文化意識を高め、今後とも更なる安全安心の確保に取り組んでまいります。